第6講

合格者の志望理由書から学ぶ

チャプター1 実績があるとき① 実績の活かし方

チャプター2 実績があるとき② リサーチデザインと志望大学との調整

答案例を見てみよう

○ 環境情報学部志望者の答案例

　私は、災害時に状況に応じた行動をとれる住民を増やすために、地形や自然を地理学・環境学から学び、「共助」の力で命を守る地域を作るための防災学を研究したいと考えている。

　私は救命の知識を持っていたにもかかわらず、交通安全ボランティアの高齢者が突然死してしまったという経験から、高校生活で人の命を救うためのプロジェクトを行った。そして、市と協力してＡＥＤを年間80台ずつ設置する成果を出し、○○○○○○○○全国大会でファイナリストに選出された。自分の活動を振り返ってみると、救命だけではなく、災害から市に住む人々の命を助けられるのではないかということに気づくことが出来たように思う。また、ＡＥＤ設置活動は継続するが、更に多くの人の命を救えて必ず発生する災害から市民の命を守りたいと願うようになった。

　きっかけは、大雨・洪水警報だけでなく避難勧告・指示（命令）も発令された台風19号である。このとき届いた避難指示のメールに記載されていた避難場所が自宅よりも河川に近い中学校であったことから、避難するべきか否かを悩んだ経験から、防災に興味を持った。

　私が住む市は山地と丘陵地帯に囲まれていて、様々な災害が発生しやすい。加えて、平均的に川幅が狭く、○○川から16の河川が枝分かれする源流都市で、合流部が多いことからバックウォーター現象が発生しやすく水害が多い。○○○市は地形的影響で土砂災害警戒区域に指定されている箇所が県の３分の１を占めている。

　また、ＡＥＤの設置をするプロジェクトで気づいた課題は、○○○市の高齢者率は25％に対し、私の周辺の町では更に15％高い40％であり、2045年の○○○市は高齢者率が40％近くなると予想されているという事である。そのため、災害が発生した場合に世代ごとの避難となってしまうと高齢者の方々が逃げ遅れてしまい、命を奪われてしまう可能性が高い。また、高齢者はスマートフォンを所持する人が少なく、避難すべき基準の判断が難しい山の中に住んでいる人は、防災行政無線を聞く方法しかないにも関わらず大雨の音で放送がかき消されてしまうことがある。誰もがわかりやすく、すぐに行動できるような情報発信が○○○市の課題である。

　防災教育の面では、○○○市の学校では月に１．２回程度火災、不審者、地震の訓練が行われているが、水害や土砂災害が発生した場合の訓練は行われていない学校が多い。また、それぞれの町で消防団と協力した防災訓練が年に１度開催されているが若い世代の興味関心は低く、参加者は少ない。だからこそ世代を超えた防災訓練を行うことで、若い人の救助や運搬などの力と高齢者の知識をつなぎ合わせることが重要だと考える。

　そこで、私はすべての問題を解消する防災プログラムを起案したい。まずは、市区町村規模で被害状況に合わせてとるべき行動がわかりやすく記載されている、危険な場所の写真やコメント付きのハザードマップを地域の学生たちと協力して作成したい。

　そして、小学校では、高学年は地域住民と協力して救助訓練や避難誘導など、自ら行動出来るリーダーを育てる授業、低学年は防災に興味関心を持つためにフィールドワークを行い、各自の防災に関する考えを育むための授業を作り上げたい。防災工事を行い被害を抑えることは簡単だが、莫大な費用と長い年月が必要なため、○○○市を地理学・環境学の視点からソフト面で研究し、水害・土砂災害・地震時にどのように対応すれば人の命を救えるのかを調査をしたい。また、防災行政無線の課題についても調査を行いたい。

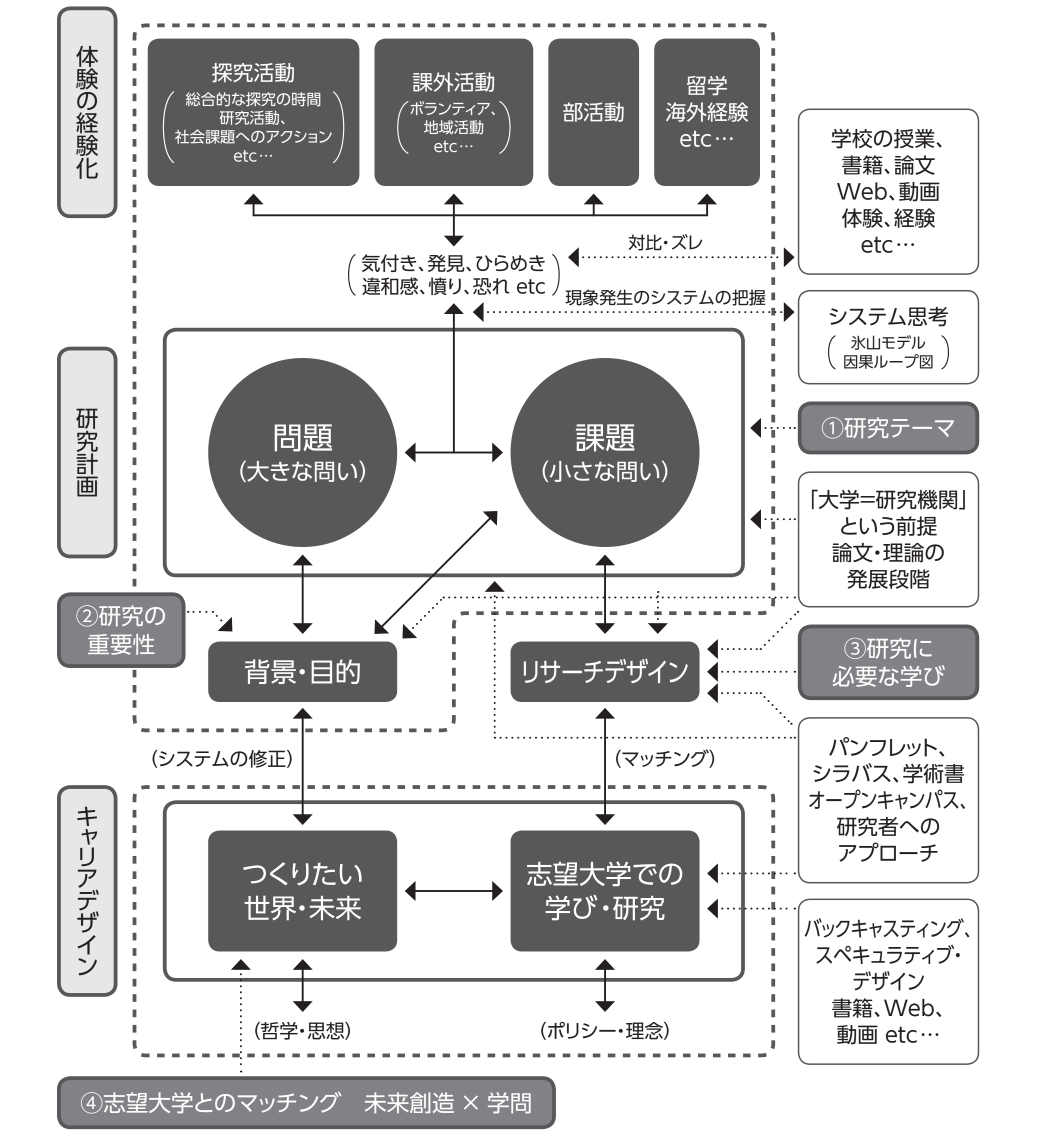
　そのために、小中学校の生徒と地域住民が協力してフィールドワークやグループワークを行うことが、授業導入へのファーストステップになると考える。また、その成果を発表し合うことで、防災意識の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上にも繋がり、互いに助け合おうとする「共助」の心も育まれると考える。そして、２つの研究結果を踏まえて、高校での活動でお世話になった市議会議員の方にさまざまな提案をするとともに、○○○市の課題を解決するためのツ

ールやイベントを卒業プロジェクトとして制作したい。防災と救命の行動プランの研究と同時に、最終的には「共助」の力によって命が失われないためのコミュニティをつくりたい。プロジェクトを行う中で出会った地域の人の個性や特性が、コミュニティデザインにおけるリーダーとして活かされ、住民のコミュニティに対する帰属意識や愛着の形成につながり、それによって主体的に他者に貢献したいと考えるようになるという「貢献の理論」を、高校で行ったプロジェクトを用いて検証していく。そして、多くの人が地域に貢献する体験をし、それに対して自己効力感を得ることでコミュニティの課題達成へと努力し、共有する場を作ることでコミュニティをより強固にする過程を、フィールドワークを通じて検証する。このような演繹的方法によって、私は、コミュニティデザインの理論を確立する。そのために、AED設置活動の継続と防災教育活動を率先して行っていく。

　このような研究を私は○○○○教授のもとで行い、まずは一人でも多くの住民の命を救いたい。また、成功した事例を高校生活で行った救命活動と組み合わせて、貴学から日本全国の人の命を災害から救うために、貴学環境情報学部を志望する。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3 特筆すべき実績がないとき① 体験の経験化への工夫
チャプター4 特筆すべき実績がないとき② リサーチデザインの工夫

答案例を見てみよう

○ 文学部ドイツ語圏文化学科志望者の答案例

　昨今、改めて平和の大切さが見直されている。私はトーマス・マンの生き方を研究し、批判的思考力・問題解決能力を身に付けたい。マンの批判的思考と平和への思いは、現代社会において、最も大切な視点だと考える。マンを正しく理解するために、彼の作品を通してドイツ語圏の多様で複雑な歴史・文化的背景を知り、人類の平和について理解を深めたい。

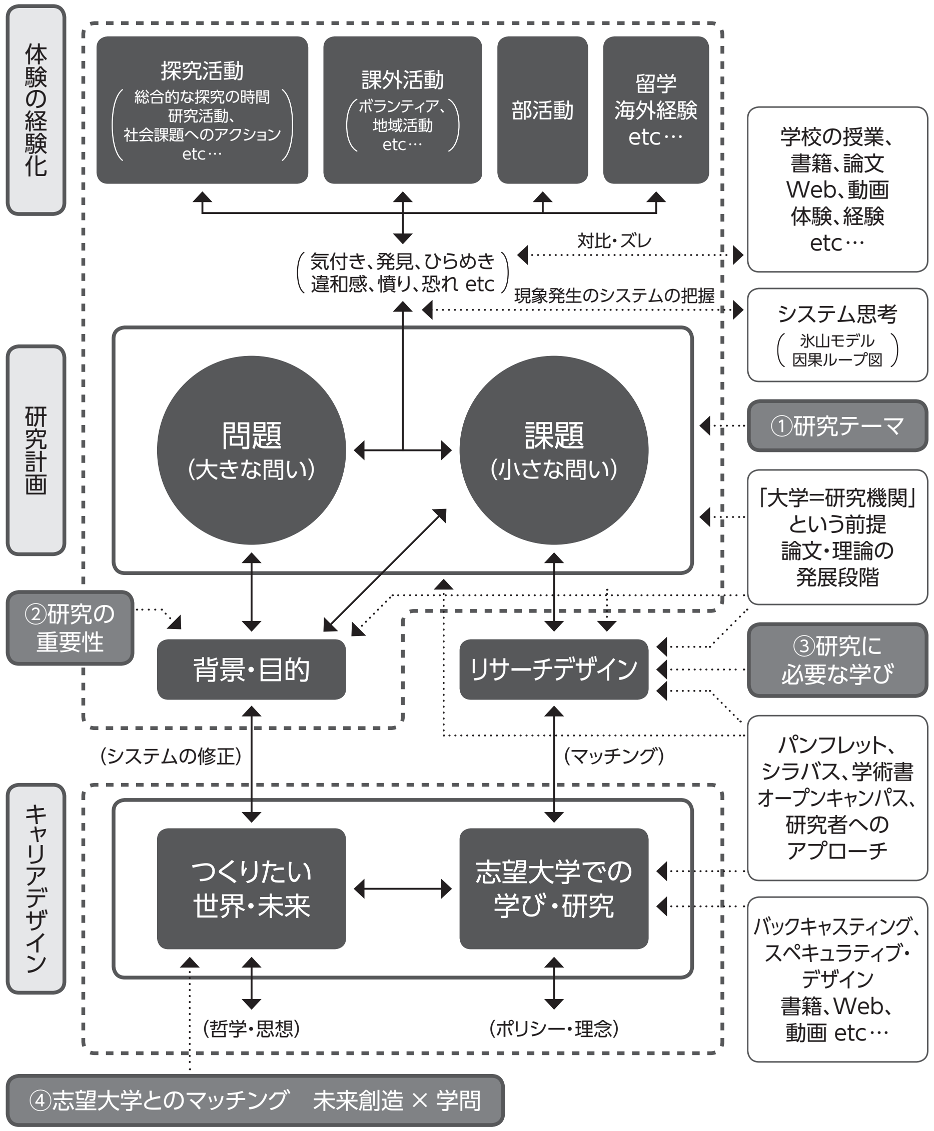
　私がトーマス・マンに関心を抱いたのは中学２年生の時に読んだヘルマン・ヘッセの作品、『少年の日の思い出』との出会いがきっかけである。その時、ヘッセと同時期に活躍したトーマス・マンの作品に触れる機会があり、二人には多くの共通点があることが記憶に強く残っている。二人ともギムナジウムを中退し、仕事も上手くいかず、自らのその体験をもとにした作品を執筆している点や二度にわたる世界大戦を体験している点、ノーベル賞を受賞した点等が挙げられる。

　しかし、二人の生き方には大きな違いがある。ヘッセは自分の内なる世界を見つめ、内面を深めていく生き方をしていた。それとは対照的に、マンは外の世界を冷静に見つめ、絶えず社会と深く関わる生き方をしていた。また、第二次世界大戦中のナチスドイツの体制下でも、自分の指標を失わず、当時の社会を冷静に見つめ、その危険性を警告し、伝え続けていた。加えてマンは、権力に迎合せずあくまでも冷静に未来を見据え、個人の意見として自分を偽らず、正しいことを訴え続けた。私はマンのこのような生き方に感動し、もっと深くマンについて学びたいと思った。権力者や特定の団体による偏った判断に、民衆は流される傾向が強い。特に暴力・戦時下においては、命令に従ってしまう弱さを持っている。そうした状況下で求められる力とは、マンの様な冷静な分析力、探究力、思考力、行動力ではないか。マンの研究に魅力を感じたのは、現代社会の問題を発見し、解決策を自分自身で創出し、実践できる行動力の根源が明らかになるという期待があるからだ。世俗に流されることなく、偏見や固定観念を払拭し、現状を正しく見る力を養うために、私はマンをより深く研究したい。

　そして、私は「現代社会における問題発見・解決能力」「自己表現力」「国際感覚」の醸成を目指す○○大学文学部の姿勢に共感している。加えて、トーマス・マンが影響を受けたという、ワーグナーゆかりの音楽祭の町、バイロイトへの留学も魅力的だと感じている。そして、トーマス・マンの文学作品を研究されている○○教授がいらっしゃる。私は○○教授の下でトーマス・マンの作品の理解を深め、日本そして世界の平和の担い手として活躍できる存在になりたい。そのためにドイツ語の運用能力を高め、国際感覚を磨き、見識を広めていきたいと考えている。

生徒メモ欄

○ 志望理由構築の概念図



生徒メモ欄

教員記入欄